

「生活者としての外国人」のための
日本語教育事業
活動報告会

地域における連携・協力に向けた
地域日本語教育コーディネーター
の可能性と課題



はじめに

- 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 活動報告会
 - 文化庁委託事業(平成19年度～)
 - 地域日本語教育コーディネーター研修:実践活動

- 地域における連携・協力に向けた地域日本語教育コーディネーターの可能性と課題



報告者3名（H22年度研修の修了者）

□ 各務眞弓

可児市国際交流協会事務局長

□ 北川裕子

のしろ日本語学習会代表

□ 八木浩光

熊本市国際交流振興事業団事務局長

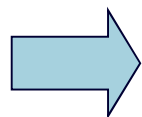
進行：米勢治子（東海日本語ネットワーク副代表）

地域日本語教育コーディネーター 研修(1)

□ コーディネート機関・人材が必要(H21年1月)

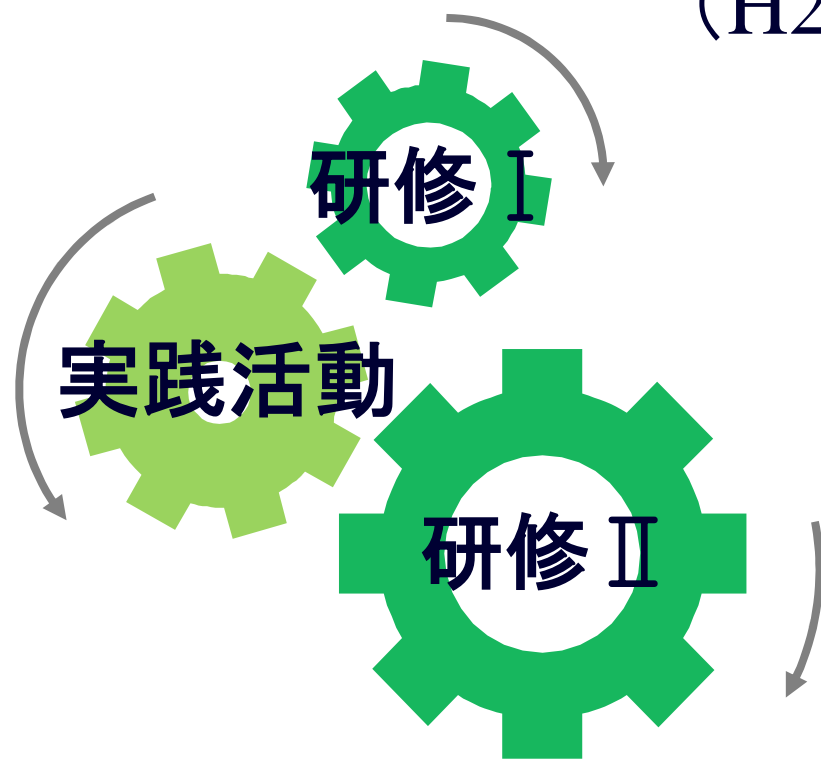
⇒ コーディネーターに求められることを考えるWSを実施

求められること	必要な能力
問題把握・課題設定	地域日本語教室の現状と問題を把握し、課題を設定する力
ファシリテーション	課題解決のプロセスを可視化し、活動を推進する力
連携(ネットワーク)	組織内外の調整や、地域や組織や人の力をつなぎ、協働を進める力
方法の開発	「生活者としての外国人」に適した日本語教育の方法を開発する力
リソースの把握・活用	日本語教育のリソースを把握し、課題に応じて適切に活用する力



地域日本語教育コーディネーター 研修(2)

- 地域日本語教育コーディネーター研修を実施
(H22年度, H23年度)





本報告会の進め方

□ 報告

- (1) 地域の状況・活動団体の概要・報告者自己紹介
- (2) コーディネーターとしての事業への関わり方
- (3) 体制整備の課題と今後に向けて

□ ディスカッション

□ 会場との質疑応答

□ まとめ

報告を受けて

地域の状況と日本語教育事業

地域規模・特性	所属団体および事業の概要
可児市:人口10万人 外国人5,803人 ブラジル・フィリピン	2000年設立:多文化共生を目的/子ども学習保障・96年~日本語学習支援(就労・子育て)/指導者養成
能代市:人口6万人 外国人260名 8割が配偶者	91年中国残留帰国家族支援⇒94年設立/日本語学習支援(子育て・子供~大人)/地域住民との交流事業
熊本県:人口181万人 外国人8,944人 9割がアジア	1993年設立/日本語支援・多言語相談等・義務教育課程の日本語指導/県内格差解消に向けた取り組み

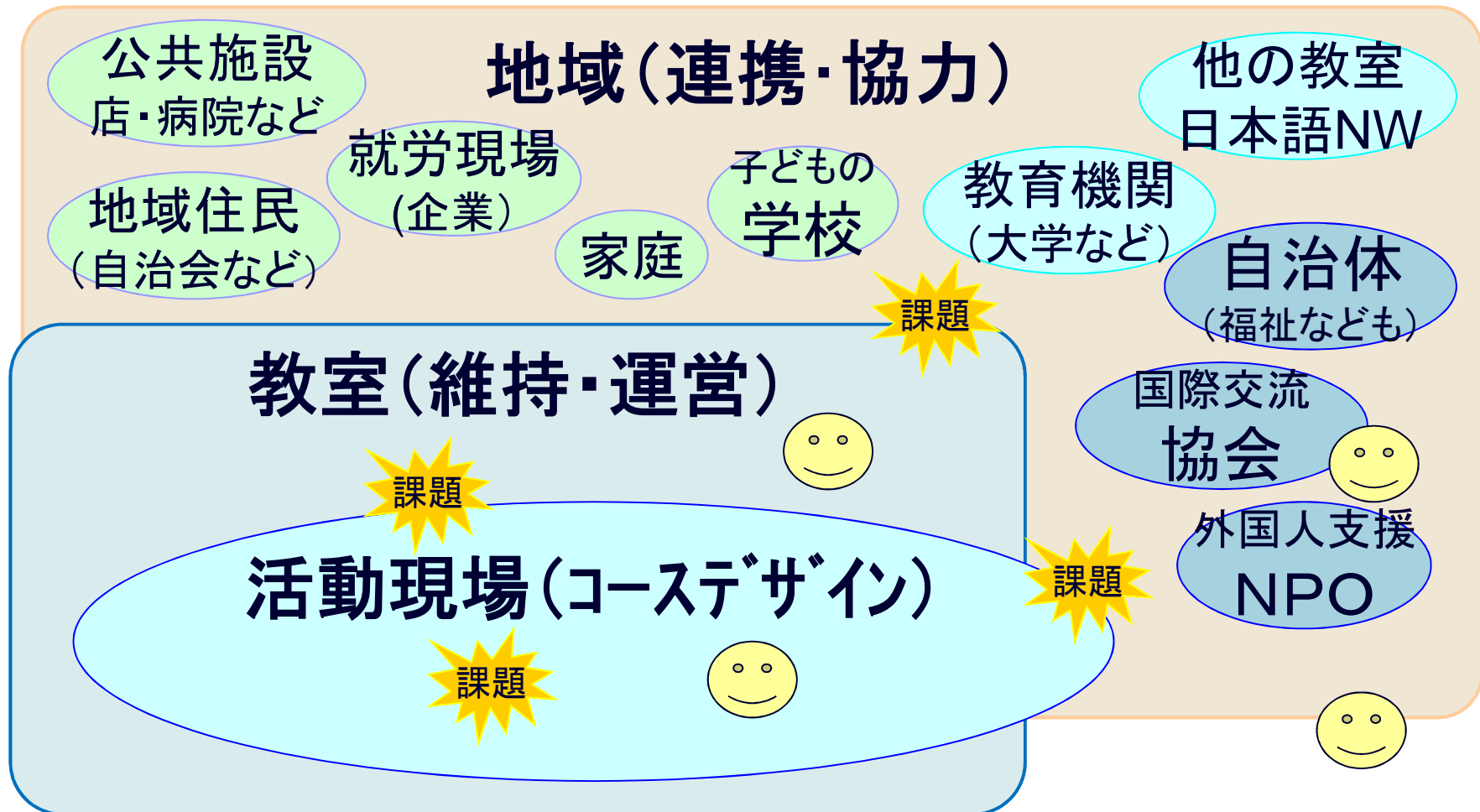


ディスカッション

1. 体制整備におけるコーディネーターの役割
2. コーディネーターとしての課題

ディスカッション(1)

体制整備におけるコーディネーターの役割



ディスカッション(2)

コーディネーターとしての課題

	目標とする活動のあり方	コーディネーターの役割
各務	仕事＋子育て＋余暇を楽しむ支援／多様な人材を支援者に	変化する課題に対応し、行政や地域の企業を含め多様な人々と連携する
北川	自立する生活者を支援する／街づくり／誰もが支援者になれる	行政窓口・教育関係者・日本語支援者への啓蒙 市民への啓発
八木	オンデマンド・シームレス／人と人を繋げる豊かなコミュニティーづくり	個人をつなぎ組織へ 国際交流協会(現場)と大学(研究)をつなぎ協働へ



会場との質疑応答

□ お名前・ご所属・質問したい相手

- 各務真弓: 可見市国際交流協会事務局長
- 北川裕子: のしろ日本語学習会代表
- 八木浩光: 熊本市国際交流振興事業団事務局長

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 活動報告会

地域における連携・協力に向けた 地域日本語教育コーディネーターの可能性と課題

まとめ

ご清聴、ありがとうございました。